

令和2年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1472000932	事業の開始年月日	平成16年6月1日
		指定年月日	平成28年6月1日
法人名	株式会社 ハートライフケア		
事業所名	グループホーム 悠悠苑平塚事業所		
所在地	(〒254-0012)		
	平塚市大神2108-1		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和3年1月31日	評価結果 市町村受理日	令和3年8月19日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>利用者様に「安心・安全・笑顔のある暮らし」を提供出来る様、介護目標「ゆったりと、待つ介護・寄り添う介護」を目指すために、職員一人一人が自己目標を掲げ、常に意識してケアを行っています。</p> <p>開設から16年、利用者様の高齢化・重度化に伴うニーズに対して、求められる知識と技術を高め、責任を持ってサービスが提供出来る様、ケアの向上に努めています。</p> <p>新型コロナウイルス感染予防の為、地域との交流、ご家族・馴染みの方々との交流が困難になっていますが、写真を送ったり、電話等で会話をさせて頂いたり、ソーシャルディスタンスを保ちながらの面会等、関係が保たれるよう、職員一丸となって努めています。</p>
---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和3年2月26日	評価機関 評価決定日	令和3年5月12日

※新型コロナウイルス感染予防の為、事業所訪問をせずにオンライン調査を行っております。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<h4>【事業所の概要】</h4> <p>グループホーム悠悠苑平塚事業所は、JR東海道線平塚駅北口または小田急小田原線本厚木駅南口よりバスで25分、バス停から徒歩3分の住宅地にあるホームである。ホーム前の歩道が小学校の通学路にあたり、「見守り隊」の役割を担って、登下校の際に児童に声を掛けている。ホームの広い駐車場は、外気浴の場であり、天気の良い日には食事を摂ることもある。</p> <h4>【「食」を楽しむ支援】</h4> <p>新型コロナ禍のために地域行事が中止となり、地域交流も出来ない中で、「食」で利用者に楽しんでもらおうと様々な工夫を重ねている。駐車場で食事会もその一つであるが、他にも七夕やクリスマスの昼食時に、事前に利用者の好きな料理を確認し、その料理をバイキング形式で提供した。大変好評でおやつの時間まで延長したこともある。節分には、利用者一人一人が恵方巻を作り、味わっている。また、例年よりも出前の回数を増やし、ドライブの帰りにアイスクリームを食べたり、「食」に色々と変化をつける工夫を行っている。</p> <h4>【運動を通じて笑顔を引き出す支援】</h4> <p>今年度は外出機会も減少しているため、少しでも運動してもらおうと、1週間にわたって様々な種目を競い合う運動会を行った。利用者は童心に帰り、笑顔を見せたり悔しがったり、いつもと違う表情も見せながら、楽しく体を動かした。</p> <p>また、「廊下を歩こう運動」を行い、利用者の目標を示す棒グラフを作り、歩いた回数分のシールを貼ることにした。普段は歩くことを好まない利用者も目標を持つことと、自分の歩いた結果が「見える」ので楽しみながら歩いている。職員たちは、目標達成した利用者にどのような賞品を差し上げようかと今から頭を悩ませている。</p>
--

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム苑平塚事業所
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝の申し送り時に復唱している。また、名札の裏に記載し、いつも確認できるように配慮している。職員同志で、常日頃から理念に基づき、笑顔で穏やかに過ごせるよう実践に努めている。	理念は開所時に当時の管理者と職員で考えて作成した。事務所に介護目標とともに掲示している。管理者は、理念にある「笑顔あふれる日々」の実践を心掛けている。職員同士が笑顔でいると自ずと利用者が笑い合っていることが多い。職員が助け合い、チーム力を高めることでケアへの余裕が生まれ、職員の笑顔が更に見られるように指導している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防の為、交流が出来なくなっている。	大神自治会に加入し、回覧板で地域情報は確認しているが、今年度は行事が全て中止となった。ホーム前の歩道が小学校の通学路で「見守り隊」としての登下校の際の声掛けは継続している。近隣住民宅の庭に夏みかんが実り、北海道出身の利用者が散歩時に初めてみかんを見たとの会話から、その方との交流が始まった事例がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染予防の為、交流が出来なくなっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染予防の為、交流が出来なくなっている。	新型コロナ禍により実施していない。以前は、自治会長、地区社協会長、地域包括支援センター職員、民生委員、家族の参加で開催していた。今年度は自治会長と地域行事の件で情報交換を行う機会があった。	新型コロナ感染予防上、集合形式での開催は難しいと思いますが、書面開催により、ホームの状況報告を行い、従来の参加者より意見を収集し、ホームの運営に役立てることを期待します。

5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新型コロナウイルス感染予防の為に衛生用品の不足。消毒液の不足等、伝え協力を得ている。	新型コロナ禍の中、介護福祉課から衛生用品と消毒液について情報を入手した。保健所職員が来所し、ホームにて新型コロナが発生した場合の対応方法に関し、具体的な指導を受け、職員の知識や対処の仕方などの理解が深まり、ホームとしても大変有意義であった。	
---	---	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を行なって、実践している。日中は、玄関を開放し、自由に出入りしている。緊急やむをえない時、一時的に施錠を行う事があるが速やかに開放している。身体拘束の適正委員会を定期的開催、職員に周知している。	身体的拘束等の適正化委員会を3か月に1度開催し、拘束の有無等に関し、議論している。毎年1回実施する研修前に職員は拘束に関する自己点検の目的で事前アンケートに答えている。玄関、ユニット出入り口は開錠しているが、利用者の状況により安全面を考慮し、一時的に玄関を施錠することはある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について、自己点検シートで予習・確認、研修を行っている。精神的虐待にならない様、ユニット会議・カンファレンス等で話し合い、声掛けに注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1階で成年後見人制度（1名）2階で日常生活自立支援事業（1名）を活用しているが、学ぶ機会を持っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が、ご家族・ご本人に説明し、理解・納得を図っている。改定等の際は、十分な説明を行い同意書を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会・行事参加等、平塚市介護相談員を月1回受け入れていたが、新型コロナウイルス感染予防の為、交流ができていない。意見箱の設置・苦情相談窓口を玄関などに表示し、いつでも申し出が出来る旨を伝えている。	定期的なホームからの便りは出していないが、必要に応じて連絡事項を書面で発信している。利用者との窓越し面会や電話連絡の際に、家族から要望や疑問点を聞くようにしている。「動画を撮って欲しい」、「面会は可能か」といった個別の内容が多く、それぞれに応えるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回意向調査を行っている。代表者がユニット会議に参加している。管理者は、ユニット会議に於いて、管理者会議の報告をしている。意見や提案の把握に努め、代表者と、管理者・リーダーで運営会議を月1回開催。現状報告・意見や提案を聞く機会を設け、反映している。	毎月1回開催のユニット会議や、年間に1度開催する個人面談、また、現場にて職員の意見、要望を聞いている。今年度では、シフト毎の業務内容に偏りがあるとの意見があり、内容を見直した。換気により利用者が寒さを感じないように大型空気清浄機での代替や食材保管のための冷凍庫購入といった意見もあり、対応している。新型コロナ禍で外出機会が減少するので、運動会の開催や歩こう運動といったレクリエーション実施の提案もある。	
12	○	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、随時、職員から意見等を聞き、代表者に管理者会議等で要望・意見等、報告し、給与水準等、労働条件・職場環境等、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を設けていたが、新型コロナウイルス感染予防の為、研修を受ける機会を確保出来ていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	新型コロナウイルス感染予防の為、交流が出来なくなっている。グループホーム連絡会定例会も参加者が少なく、情報交換が出来ていない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントにおいて、ご本人の要望に耳を傾け、寄り添い話を聞く場を常に設け、安心を確保するための関係づくりを初期プランにあげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期プランを作成する上で、ご家族の希望を十分取り入れる事が出来る様、努めている。面会時や電話により、ご家族等の不安や要望に耳を傾ける機会を作り関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族等の抱える不安・要望を把握し、アセスメントを行い、必要としている支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事を行う事で、役割を持って生活して頂き、食事作り、片付け等で協力し合える関係を築けるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の要望等、連絡したり、本人の以前の暮らし方や思いを聞きケアに反映させる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の要望、家族の要望がある時は、テレビ電話・窓越しの面会等、手紙での交流等を行い関係が途切れない様、努めている。	家族とは、窓越しや2階踊り場と駐車場とで距離を保つ形で面会を実施している。電話やSNSを使ったビデオ通話も行っている。家族も含めた手紙のやり取りや趣味の色鉛筆画、読書を継続している利用者もいる。教育熱心な親であった利用者には教科書を渡し、当時を振り返ってもらっている。以前よく行った蓮池に蓮の花を見にドライブに出掛けることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の特徴を把握、テーブルの配置、席等工夫し、楽しく会話出来る様配慮している。出来るだけリビングに来て頂き、体操等に参加して頂いている。レクリエーションへの参加を通して互いの関係づくりを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	写真を贈ったり、管理者・職員が、電話等で経過を伺うなどして関係を断ち切らない取組を行っている。		



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の希望に添える様、会話や表情の中から意向の把握に努めている。好きな事・趣味等の把握に努めている。	利用者の行動から好きなことや思いを理解するようにしている。発語の難しい利用者が、音楽を聴くと体を動かすといった普段の行動を観察することで音楽好きだと把握できた事例がある。把握した思いはケア記録に記載し職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント・ご利用者様との会話から、これまでの暮らしの把握に努め、ご本人が好きだった事、その人らしい過ごし方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの対応・会話等、日々の生活の中で、現状の把握に努めている。変化等が見られた場合は、カンファレンス・ユニット会議・申し送り等で情報交換等を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様の担当を決め、より細かい観察に努めている。日々の生活状況の中から支援方法を検討、見直しを行う。本人・ご家族の希望を取り入れ、ケアカンファレンスは、全員で行い介護計画を作成している。	入居時に初回のケアプランを作成し、3か月後に見直しを行う。長期目標は1年、短期は半年で見直す。身体状況に変化があった場合は随時見直している。毎月のユニット会議で居室担当者から利用者の状況報告を受けている。カンファレンスは6か月に1度開催し、カンファレンスシートを使い評価し、ケアプランを見直している。カードックスにケアプランを添付することで記録時にケア内容がプランに沿っているかどうかを確認出来るようにしている。	

27	<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々のケア記録・生活チェック表、申し送り等で情報を共有し、実践・介護計画の見直しに活かしている。</p>		
----	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービス・有料老人ホーム・居宅支援事業所等、情報交換を行い、ニーズに対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染予防の為、交流が出来なくなっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問医療により適切な医療を受けられるよう支援している。状態を医師に報告・状況に応じご家族との連携を取っている。また、緊急時においても、速やかに対応して頂いている。	内科は利用者全員が月2回の訪問診療を受診している。歯科は希望者を対象として週に1回、神経内科は月に1回、皮膚科は必要に応じての訪問診療となっている。外部医療機関への通院は家族対応が原則で、ホームに送り届けてくれた際に受診結果を確認し、ケア記録に記載している。非常勤の看護師が月に2回出勤して健康管理をしている。内科医及び看護師は24時間オン・コール体制となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のデイサービスの看護師と連携を取り合い支援している。月2回、看護師の出勤があり、情報を伝えて相談し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、サマリーを作成し情報交換を行っている。また、退院指導等に同席させて頂く等、病院側から情報を提供して頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方についてのご家族・主治医・管理者で話し合い看取りを行う場合は、同意書を頂いている。主治医をリーダーに、ご家族との連携を密にし、管理者・看護師を中心にチームで支援に取り組んでいる。	指針を入居時に説明している。医師が終末期と判断した際は、「看取り介護についての同意書」の内容を説明し、同意を得ている。今年度は新型コロナ禍のため看取りの研修を実施していないが、例年に行っている。昨年は4件の看取りがあった。看取り後は職員全員でお見送りをすることとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	見やすい場所に「緊急手順表」が貼ってあり、緊急時に活用している。 定期的な訓練を行っている者もいるが、全ての職員が実践力を身に付けているには、至っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	苑内での避難訓練を年2回、実施し、夜間を想定した訓練・風水害時の訓練を行っている。災害対策委員会を中心に、誘導方法を身に付け、防災意識を高めている。	昨年10月に風水害想定自主避難訓練を行い、今年3月に夜間想定火災訓練を行う予定である。昨年の訓練では、垂直避難としたが、思いのほか体力が必要であることがわかったので、時折階段の昇降運動を取り入れることとした。また、非常食の試食も行い、調理方法や調理時間の確認を行った。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけない様、職員が個々の目標を立てている。目標を掲示して、自己目標を常に意識して、目標に向かって取り組んでいく。	職員の大きな声での声掛けが利用者にとって、時には雑音になることを職員に周知している。耳元で小さな声で話し掛けても話が伝わることや、スピーチロックを回避するため、単に「待ってて」と言うのではなく、理由をきちんと伝えた上でお願いする声掛けの仕方を管理者自らが職員に手本を示し指導している。ケア記録や排泄表への記入の際は、名前が見えないように配慮している。個人情報関連書類は鍵のかかるキャビネットで保管している。	利用者への適切な声掛けに関し、職員個々に自己目標の設定を行い、取り組んでいます。その取り組みの継続により達成度が向上することを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で、ご本人の意思を引き出せるよう、自己決定できるよう努めているが、全ての職員が出来ているとは言えない、声掛けの工夫が必要と思われる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	健康管理・安全・安楽の確保に留意し、職員側の都合を優先するのではなく、ご利用者様のペース・気持ちに合わせて生活出来る様、ユニット会議等で話し合い、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自ら衣類を選んで着ている方もいる。清潔保持が出来る様、声掛けの工夫をし、更衣の促し等を行っている。「おしゃれ」への気遣いや介助で楽しんで頂ける様、援助をしていきたい。		

40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援          食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>無理強いせずに声掛けを工夫し、ご利用者様と職員と一緒に準備・片付けを行っている。また、お礼の言葉を必ず掛け、やりがいに繋げている。</p>	<p>配食業者からの食材提供を受け、調理して提供している。メニューのマンネリ化を防ぐために業者変更の提案が職員から挙がり、検討中である。「食」を楽しむために、事前に利用者の好みのメニューを聞いて、それをバイキング形式で食べてもらったり、駐車場で食事を摂ったり、出前の回数を増やしたりと様々な工夫をしている。手作りで焼きそばを作った時は利用者にキャベツを切ってもらするなど、出来ることは一緒に行うようにしている。誕生日には本人のリクエストでメニューを決めて、お祝いをしている。ケーキは外部から購入しているが、和菓子が好きな利用者にはケーキに見立てた和菓子を用意することもある。</p>	
----	----	---	--	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取量を表にまとめている。水分量の少ない方は、好みの飲み物を提供、補助栄養の提供等、一人ひとりの状態を把握、記録し、統一した支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け・見守り・介助等、ご本人の力に応じた対応を行っている。歯科医の訪問医療を受け、口腔管理を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を付け、一人ひとりの排泄能力・排泄パターンを把握している。必要に応じた介助を行い、トイレで排泄出来る様、支援している。	トイレは各ユニットに2ヶ所で、内1ヶ所は浴室につながっている。排泄表でパターンを把握し、トイレ誘導を行っている。夜間は睡眠優先で吸水性に優れたパットを使用している。リハビリパンツにパットを使用していた利用者が生活リハビリの効果で布パンツにパット使用となったり、パットのサイズが大から小になった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、納豆+オリーブオイル、牛乳・乳製品を取り入れている。個々の状況に応じて、オリゴ糖を使用する・水分を多めに促す、運動の働きかけを行っている。運動困難な方へも薬に頼らない工夫・食事のペース等気を付けて援助していく。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日・入浴時間を決めているが、出来るだけ、希望・状況に応じて入浴が出来る様、配慮している。入りたくないようであれば、無理に勧めず、声掛けの工夫・タイミングに合わせ支援している。	週に2回が基本で希望の時間帯に入浴している。手動式入浴リフトを昨年導入し、全利用者が浴槽に入ることが出来るようになった。入浴を好まない方には、タイミングを計ったり、時間を変えたりしているが無理強いはいしない。ヒートショック対策は浴室内が暖房で、脱衣所はエアコンで対応している。湯はかけ流しで、入浴剤を使い、色や香りを楽しんでもらっている。柚子湯も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の意思に任せている。意思を表現しない利用者には、様子観察をして、安心して眠れる様、必要に応じた対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をカードデックスにファイルし、一人一人の薬の目的や副作用を理解するよう努めている。薬剤師に随時相談・指導を受けられるようになっている。服薬チェック表を付け、薬の確認・服薬の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事への参加等、一人一人の力を活かした役割を持っている。行事・レクリエーション・音楽鑑賞等で気分転換を図っている。また、口腔体操等リードして下さる方、家庭菜園等積極的に取り組んでいる方がいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染予防の為、外出は控えているが、ドライブ・苑の周りの散歩等行っている。	車イスの利用者も含めてホーム周辺を10分から15分程度、散歩している。また、駐車場で外気浴も行う。昨年11月より「廊下を歩こう運動」を始めた。歩いた回数分のシールを貼って棒グラフにしている。結果が見えるので利用者は楽しみながら歩行運動を継続している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が必要とする物を聞き入れ職員が代行・インターネット等で買い物を行っている。自販機で好きな飲み物を購入することがある。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	知人・友人・ご家族と電話をやり取りしたり、手紙のやり取りの支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた装飾を行っている。温度・湿度・匂い等、確認している。リビングのテーブルの位置等、状況に応じて工夫をしている。ご利用者様にとって不快や混乱を招かない様、刺激がない様、配慮しているが十分ではない。	季節感を表す利用者の貼り絵や折り紙の作品、誕生日のポスターを壁にはり、写真も掲示している。リビングのテーブルや席の並びを利用者にとってストレスがかからないように心掛けている。清掃は職員が夜間行い、手すり等の消毒は朝、夕の2回、居室も同時に行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれる場所、気の合った者同士が過ごせる場所等、ソファ・椅子・テーブル等で工夫している。外ベンチ等も活用している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や、ご本人の好みの家具・物品をご本人・ご家族と相談しながら配置している。	エアコン、クローゼット、照明器具が備え付けられている。利用者は嫁入り道具のたんすも含め馴染みの家具を持ち込み、自身の誕生日のポスターを貼ったり、写真を飾っている。歩行が不安定な利用者の居室では、家具を伝って歩けるように配置している。掃除は原則職員が行うが、利用者自身が行う場合もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の力に応じた寝具（ベット・サイドレール設置・布団）椅子・家具等の設置を行っている。		

事業所名	グループホーム苑平塚事業所
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝の申し送り時に復唱している。また、名札の裏に記載し、いつも確認できるよう配慮している。職員同志で、常日頃から理念に基づき、笑顔で穏やかに過ごせるよう実践に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防の為、交流が出来なくなっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染予防の為、交流が出来なくなっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染予防の為、交流が出来なくなっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新型コロナウイルス感染予防の為の衛生用品の不足。消毒液の不足等、伝え協力を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を行なって、実践している。日中は、玄関を開放し、自由に出入りしている。緊急やむをえない時、一時的に施錠を行う事があるが速やかに開放している。身体拘束の適正委員会を定期的開催、職員に周知している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待について、自己点検シートで予習・確認、研修を行っている。精神的虐待にならない様、ユニット会議・カンファレンス等で話し合い、声掛けに注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1階で成年後見人制度（1名）2階で日常生活自立支援事業（1名）を活用しているが、学ぶ機会を持っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が、ご家族・ご本人に説明し、理解・納得を図っている。改定等の際は、十分な説明を行い同意書を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会・行事参加等、平塚市介護相談員を月1回受け入れていたが、新型コロナウイルス感染予防の為、交流ができていない。意見箱の設置・苦情相談窓口を玄関などに表示し、いつでも申し出が出来る旨を伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回意向調査を行っている。代表者がユニット会議に参加している。管理者は、ユニット会議に於いて、管理者会議の報告をしている。意見や提案の把握に努め、代表者と、管理者・リーダーで運営会議を月1回開催。現状報告・意見や提案を聞く機会を設け、反映している。		
12	○	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、随時、職員から意見等を聞き、代表者に管理者会議等で要望・意見等、報告し、給与水準等、労働条件・職場環境等、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を設けていたが、新型コロナウイルス感染予防の為、研修を受ける機会を確保出来ていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	新型コロナウイルス感染予防の為、交流が出来なくなっている。グループホーム連絡会定例会も参加者が少なく、情報交換が出来ていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントにおいて、ご本人の要望に耳を傾け、寄り添い話を聞く場を常に設け、安心を確保するための関係づくりを初期プランにあげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期プランを作成する上で、ご家族の希望を十分取り入れる事が出来る様、努めている。面会時や電話により、ご家族等の不安や要望に耳を傾ける機会を作り関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族等の抱える不安・要望を把握し、アセスメントを行い、必要としている支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事を行う事で、役割を持って生活して頂き、食事作り、片付け等で協力し合える関係を築けるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の要望等、連絡したり、本人の以前の暮らし方や思いを聞きケアに反映させる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の要望、家族の要望がある時は、テレビ電話・窓越しの面会等、手紙での交流等を行い関係が途切れない様、努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の特徴を把握、テーブルの配置、席等工夫し、楽しく会話出来る様配慮している。出来るだけリビングに来て頂き、体操等に参加して頂いている。レクリエーションへの参加を通して互いの関係づくりを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	写真を贈ったり、管理者・職員が、電話等で経過を伺うなどして関係を断ち切らない取組を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の希望に添える様、会話や表情の中から意向の把握に努めている。好きな事・趣味等の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント・ご利用者様との会話から、これまでの暮らしの把握に努め、ご本人が好きだった事、その人らしい過ごし方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの対応・会話等、日々の生活の中で、現状の把握に努めている。変化等が見られた場合は、カンファレンス・ユニット会議・申し送り等で情報交換等を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様の担当者を決め、より細かい観察に努めている。日々の生活状況の中から支援方法を検討、見直しを行う。本人・ご家族の希望を取り入れ、ケアカンファレンスは、全員で行い介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア記録・生活チェック表、申し送り等で情報を共有し、実践・介護計画の見直しに活かしている。		



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービス・有料老人ホーム・居宅支援事業所等、情報交換を行い、ニーズに対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染予防の為、交流が出来なくなっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問医療により適切な医療を受けられるよう支援している。状態を医師に報告・状況に応じご家族との連携を取っている。また、緊急時においても、速やかに対応して頂いている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のデイサービスの看護師と連携を取り合い支援している。月2回、看護師の出勤があり、情報を伝えて相談し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、サマリーを作成し情報交換を行っている。また、退院指導等に同席させて頂く等、病院側から情報を提供して頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方についてのご家族・主治医・管理者で話し合い看取りを行う場合は、同意書を頂いている。主治医をリーダーに、ご家族との連携を密にし、管理者・看護師を中心にチームで支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	見やすい場所に「緊急手順表」が貼ってあり、緊急時に活用している。 定期的な訓練を行っている者もいるが、全ての職員が実践力を身に付けているには、至っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	苑内での避難訓練を年2回、実施し、夜間を想定した訓練・風水害時の訓練を行っている。災害対策委員会を中心に、誘導方法を身に付け、防災意識を高めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけない様、職員が個々の目標を立てている。目標を掲示して、自己目標を常に意識して、目標に向かって取り組んでいく。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で、ご本人の意思を引き出せるよう、自己決定できるよう努めているが、全ての職員が出来ているとは言えない、声掛けの工夫が必要と思われる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	健康管理・安全・安楽の確保に留意し、職員側の都合を優先するのではなく、ご利用者様のペース・気持ちに合わせて生活出来る様、ユニット会議等で話し合い、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自ら衣類を選んで着ている方もいる。清潔保持が出来る様、声掛けの工夫をし、更衣の促し等を行っている。「おしゃれ」への気遣いや介助で楽しんで頂ける様、援助をしていきたい。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	無理強いせずに声掛けを工夫し、ご利用者様と職員と一緒に準備・片付けを行っている。また、お礼の言葉を必ず掛け、やりがいに繋げている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取量を表にまとめている。水分量の少ない方は、好みの飲み物を提供、補助栄養の提供等、一人ひとりの状態を把握、記録し、統一した支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け・見守り・介助等、ご本人の力に応じた対応を行っている。歯科医の訪問医療を受け、口腔管理を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を付け、一人ひとりの排泄能力・排泄パターンを把握している。必要に応じた介助を行い、トイレで排泄出来る様、支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、納豆+オリーブオイル、牛乳・乳製品を取り入れている。個々の状況に応じて、オリゴ糖を使用する・水分を多めに促す、運動の働きかけを行っている。運動困難な方へも薬に頼らない工夫・食事のペース等気を付けて援助していく。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日・入浴時間を決めているが、出来るだけ、希望・状況に応じて入浴が出来る様、配慮している。入りたくないようであれば、無理に勧めず、声掛けの工夫・タイミングに合わせ支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の意思に任せている。意思を表せない利用者には、様子観察をして、安心して眠れる様、必要に応じた対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をカードックスにファイルし、一人一人の薬の目的や副作用を理解するよう努めている。薬剤師に随時相談・指導を受けられるようになっている。服薬チェック表を付け、薬の確認・服薬の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事への参加等、一人一人の力を活かした役割を持っている。行事・レクリエーション・音楽鑑賞等で気分転換を図っている。また、口腔体操等リードして下さる方、家庭菜園等積極的に取り組んでいる方がいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染予防の為、外出は控えているが、ドライブ・苑の周りの散歩等行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が必要とする物を聞き入れ職員が代行・インターネット等で買い物を行っている。自販機で好きな飲み物を購入することがある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	知人・友人・ご家族と電話をやり取りしたり、手紙のやり取りの支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた装飾を行っている。温度・湿度・匂い等、確認している。 リビングのテーブルの位置等、状況に応じて工夫をしている。ご利用者様にとって不快や混乱を招かない様、刺激がない様、配慮しているが十分ではない。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれる場所、気の合った者同士が過ごせる場所等、ソファ・椅子・テーブル等で工夫している。外ベンチ等も活用している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や、ご本人の好みの家具・物品をご本人・ご家族と相談しながら配置している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の力に応じた寝具（ベット・サイドレール設置・布団）椅子・家具等の設置を行っている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 悠悠苑 平塚事業所

作成日 令和3年 8月 15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	新型コロナ感染予防の為、交流が出来なくなっている。	運営推進会議の構成員と情報交換が出来る。	書面開催・電話等での情報交換を行い、意見を収集し、ホームの運営に役立てる。	6か月
2	14	自尊心を傷つけない様な声掛けを心掛けているが、完全とは言えない。プライバシーについて、不適切な声掛けなどがあった場合は、職員が注意し合える関係を作る事を課題としている。	職員それぞれが今年度の目標をたっている。その目標を達成させる。自尊心を傷つけない様な声掛けを心掛ける。	職員が個々の目標を立てている。目標を掲示して、自己目標を常に意識して、目標に向かって取り組んでいく。半年ごとに自己評価・他者評価を行う。	6か月
3					
4					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。